話題の注視点検出ユニット
「ＴＥ－９１０１」を 単体販売
ナックマーケス

ナック（本社・東京都世田谷区、山崎善寛社長）は、目の動きを検出する「注視点検出ユニット」（商品名・TE－9101）を、単体で販売することを決めた。これまでは、同社製の視線入力式パソコン「ViewPoint」（ビューポイント）などに組み込んで販売していたが、ユニットだけの販売を望む声が多かったため。

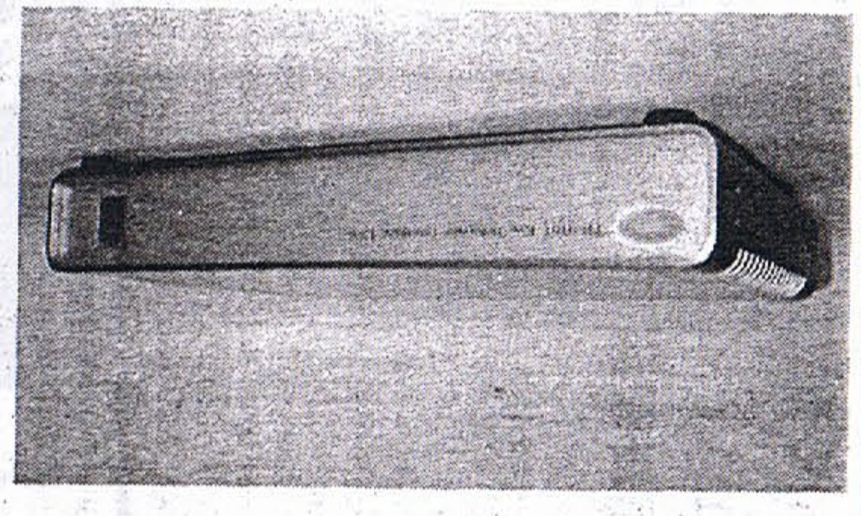
ユニットは、赤外線を目に当てて、その反射光を捉えることで、目の動きを検出する。利用者が画面上のどこを見ているかを、毎秒60回の速さで検出できる。

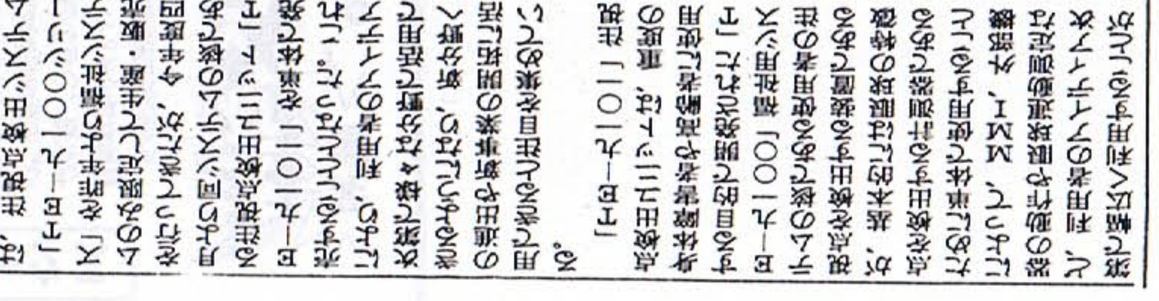
ユニットは、縦横各約10センチ、奥行き約15センチ。重さは約1キロ。赤外線を発する発光ダイオードと、反射光を捉えるカメラ、画像処理用のマイクロプロセッサーなどを内蔵している。

ユニットは、ディスプレーの下に置いて使う。利用者の顔の位置が多少動いても、検出できる範囲は縦横各約10センチ、奥行き約20センチ。

ユニットは、ＲＳ－２３２Ｃ端子を通じて、パソコンなどと接続する。

価格は、１台当たり１００万円。





（日刊工業新聞社発行　1998年2月28日　土曜日）

パソコン使い、目で会話
福祉機器など幅広い用途

エプリ　1998年6月号掲載

（静岡県総合福祉センター、静岡県静岡市）

【伝説】パソコンを使って会話する。身体障害者や高齢者など、言葉を発することが困難な人たちが、パソコンの画面を見ながら会話ができる。そんな夢のような機器が、静岡県静岡市にある。

静岡県総合福祉センターは、静岡県静岡市駿河区にある。

「アイ・レック」は、目の動きを検出する装置。

「アイ・レック」は、目の動きを検出する装置。

「アイ・レック」は、目の動きを検出する装置